



国民の森林・国有林

中部森林管理局

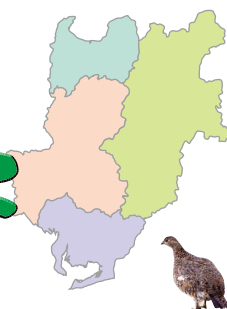
〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



局幹部と新規採用者

中部局に新たに5名が仲間入り 未来を担うフレッシュマンに期待!!

(P 9 に関連記事)

主な項目	○中部森林管理局長交代…………… P 2
	○各地からのたより…………… P 5
	○シリーズ「森林官からの便り」…………… P 8
	○シリーズ「ご当地自慢」…………… P 10

中部森林管理局長交代



新局長
奥田 辰幸

奥田新局長着任あいさつ

この度、中部森林管理局長を拝命しました奥田と申します。皆様方と一緒に仕事ができることを光栄に、かつ嬉しく思います。

農林水産省においては、林大臣が「攻めの農林水産業」をキャッチフレーズに各種施策を展開していますが、国有林は一般会計化によりまさに守りから攻めに転換したと認識しています。そうした意味で中部局、ひいては国有林野事業の存在意義を高めるための取り組みについて所信を述べたいと思います。

一点目は、「公益重視の管理経営の一層の推進」です。木曽地方の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取り組みの検討が進められていますが、インディアン・イロクォイ族の言葉で、「この大地は七世代後の子孫たちから借り受けたものである」というものがあります。今、森林を預かる我々の英知を結集して、利用と保存と復元のバランスをとりながら、より良い形で次代にバトンタッチ

していききたいものです。林野庁でも中部局の成果を元に「保護林制度全体の見直し」を行う予定であり全国をリードする取り組みにしたいと考えています。

二点目は、「森林・林業再生への貢献」です。近年、人工林資源は充実し、森林・林業再生への期待は高まっています。林業再生のためには、国産材の需要拡大が重要ですが国有林は自ら地べたを持つて管理経営しているので、国産材需要拡大の必須要件である「質・量・価格の安定供給」に有利です。国有林で作ったパイプに民有林も参画いただき国産材の需要拡大を現実のものとしていきたいと思っています。林業再生のもう一つの課題は、施業の低コスト化です。コンテナ苗を使った「伐採から造林までの一貫作業システム」の確立による造林・保育コストの削減がその答えです。

国有林が先頭に立つてこうした取り組みにチャレンジし、その成果を民有林に普及することによって森林・林業の再生を牽引していきたいと思っています。失敗しても結構です。失敗したら、なぜ失敗したかをきちんと分析し、その対策を次のチャレンジに活かせばよいと思います。何もしないで立ち止まっていれば失敗もしない代わりに進歩もなく世の中に何も貢献できませんし、それでは国有林の存在意義が無いということになります。全職員がこうした意識を持つて森林・林業の再生のために取り組むことが必要で

す。

三点目は、綱紀の保持、労働安全の確保です。綱紀の保持に関しては、当たり前ではありますがやっていますが、労働安全も同じです。ルールをしっかり守った上で自らの安全と健康は自ら守ることが基本です。つまらない事件や事故で仲間を失いたくないので高い意識を持つてそうしたことが起こらないよう取り組んでください。

「明るく、楽しく、前向きに。」皆様方が中部森林管理局で仕事ができるてよかったと思えるように私も努力します。職員一人ひとりがそうした意識を持つて努力いただくことによってより良い職場にしていきたいと思っていますのでご協力をお願いいたします。

◆奥田局長の略歴

生年月日 昭和34年1月16日

本 籍 福岡県

略 歴 九州大学農学部林学科卒

(昭57・3)

昭57・4 林野庁林政部林政課に採用

後、大阪営林局経営部計画課・亀山署、愛知県北設楽郡稲武町、林野庁林産課・木材流通課を経て

平2・8 経済局国際部国際企画課国際

専門官

〳4・8 熊本局八代営林署長

平6・8 熊本局企画調整室監査官(労務)

〳7・8 熊本局総務部職員厚生課長

〳10・4 林野庁業務部業務第一課課長

補佐(造林種苗班担当)

〳12・4 鹿児島県林務水産部林業振興

課長

〳14・4 林野庁林政部木材課課長補佐

(総括)

〳16・4 林野庁国有林野部経営企画課

課長補佐(総括)

〳18・4 大分県農林水産部審議監(林

政担当)

〳20・7 林野庁国有林野部業務課技術

開発調査官

〳21・9 林野庁国有林野部職員・厚生

課長

〳23・5 独立行政法人森林総合研究所

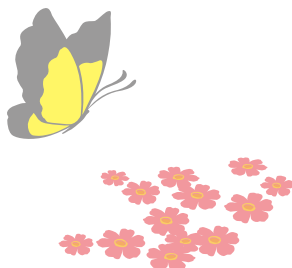
森林農地整備センター審議役

林野庁国有林野部業務課長

〳25・4 林野庁国有林野部経営企画課

長

〳26・4 中部森林管理局長



新任幹部あいさつ



新森林整備部長
中村 道人

この度、四月一日より森林整備部長を勤めさせて頂くことになりました。豊かで多様な自然、優れた景勝地、歴史ある観光資源、伝統ある文化に恵まれ、森林・林業や木材産業に大きな期待がかかる日本のど真ん中のこの地において仕事をさせて頂くことができますことを光栄に思いますとともに、大変楽しみにしております。

さて、自己紹介をさせていただきます。出生の地は岩手県下閉伊郡岩泉町です。北上山地の更に山奥、龍泉洞という鍾乳洞があるところで、かつては営林署のある町でした。幼少時は、山で木登りや山菜採り、栗拾いなどをして遊びましたが、現在は、山や川ではなく海での釣りを趣味にしています。高校からは親元を離れ、盛岡市や北海道・札幌市で楽しい学生時代を過ごしました。

就職してからは、福島県いわき市、群馬県前橋市、東京都霞が関、名古屋市中区、広島市、大分県日田市で勤務し、勤務内容としても、営林署で担当区主任をはじめ、営林局で計画編成、農林水産省構造

改善局では場整備、国土庁で全総計画、独立行政法人水資源機構でダム開発、広島県庁で林務行政や水産行政に携わらせていただき、いろいろな経験をさせて頂いていただきました。林野庁では、林業白書の作成、国有林の改革、木材分野での「国産材新流通・加工システム」の企画・立案などを担当し、直近では、先進的林業機械の開発、木質バイオマス利用技術の開発、福島第一原発の事故に伴う森林除染等放射性物質対策の技術開発などを担当しました。入庁以来、人事の要望書には「何がしたい」というよりは「いろいろな経験をしたい」と書き続けてきましたが、振り返ってみると思いに沿った道を歩んできたと言えるのかもしれない。

一般会計化された新生国有林も二年目を迎えます。森林・林業にかかわる技術の革新は現場の事業や取り組みの改善努力の中にこそあるものですし、林業・木材産業の発展も、現場の生産・加工・流通の経済活動を通じたイノベーションを通じて実現していくものです。局署の職員の皆さんはもとより、行政等の関係者の皆さんや事業者の皆さんとよく連携し、林業の成長産業化や森林の公益的機能の維持・増進という林政の重要課題の着実な前進に貢献していきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

◆中村森林整備部長の略歴

生年月日	昭和 37 年 4 月 23 日
本籍	岩手県
略歴	北海道大学大学院農学研究科林学専攻修士課程（昭 63・3） 林野庁業務部経営企画課に採用後、前橋局、林野庁林政部企画課、国土庁を経て 林野庁業務部経営企画課企画官 平 10・4 林野庁管理部職員課企画官 昭 63・4 林野庁管理部職員課企画官 昭 63・4 大分西部森林管理署長 昭 63・4 林野庁林政部木材課課長補佐（木材流通班担当） 昭 63・4 独立行政法人 水資源機構中部支社審議役 昭 63・4 林野庁国有林野部経営企画課課長補佐（企画班担当） 昭 63・4 広島県農林水産局林業水産振興部長 昭 63・4 林野庁森林整備部研究・保全課技術開発推進室長 昭 63・4 中部森林管理局森林整備部長

お別れにあたって

前局長 鈴木 信哉

この度の異動で「独立行政法人森林総合研究所」に向向することとなりました。振り返ってみますと、平成二十四年七月の着任以来、一年九ヶ月の歳月が流れており、この間、国有林野事業は、平成二十五年四月一日に、昭和二十二年の林政統一以来、約六十五年間続いた特別会計に終止符を打ち、一般会計として新たなスタートを切りました。

このような時期に、局長の任を拝命し、一般会計化の意義と国有林の果たす役割を念頭におきながら、一体何が出来るかと考え、森林・林業の再生や地域振興等のために、それぞれの地域がその特色を生かした政策の実現に向け、各種取り組みを進めて参りました。木曽ヒノキをはじめとする「木曽谷の温帯性針葉樹林」を伝統建築物の維持・保存などと調整しつつ保全する仕組みづくり、市町村森林整備計画の策定を支援する地域森林総合監理士（通称「フォレストアスター」）の育成、木材価格急変時の「国有林材の供給調整」、「コンテナ苗」を活用した生産・造林一貫作業システムの導入と普及、木曽谷の高齢級で良質な人工ヒノキ（**高国**木曾ひのき）（マルコウ マルコク キソヒノキ）のブランド化、「コンクリート型枠合板の国産材化」、食害が高山帯にまで及んだ「ニホンジカ対策」等



の貴重な取り組みを行うことができました。

また、充実するカラマツ資源を観光の視点から促進する「カラマツ黄葉写真コンテスト」、「カラマツ新緑写真コンテスト」、木材のエネルギー利用を喚起する視点から「薪セミナー」、子供達で賑わった「夏休み子供ふれあいデー」、伝統工芸品の良さを情報発信できた「桶・樽サミット」の開催など、いずれも楽しい思い出であり、また、地域の皆様にも喜んでいただけたのではないかと考えています。

今後も、国有林が「今何をして、何をしようとしているのか」地域の皆様に理解していただく取り組みが重要と考えます。

これから、一般会計としてスタートを切り二年目を迎えます。今後とも、国有林の使命を達成するために何をすべきかを考え、管内の地方公共団体、関連する業界と緊密に連携しながら、公益重視の管理経営の一層の推進のための施策づくり、我が国の森林・林業の再生や地域の活性化のための取り組みの推進など、我が職場が地域の森林・林業をリードしていく存在となるよう、全職員の皆様がそれぞれの持ち場で心身の健康に十分留意しながらご尽力いただくことを切にお願い申し上げます、お別れの挨拶とさせていただきます。

有難うございました。

お世話になりました

前森林整備部長 松本 寛喜

四月一日付けの異動で森林総合研究所に勤務することになりました。中部森林管理局での一年九ヶ月の勤務では、皆様には大変お世話になりました。十三年ぶりの局勤務でしたが、お陰様で大変有意義に過ごすことが出来ました。

振り返ってみますと、まずは一般会計化に向けた諸準備と、一般会計化以降は民国連携など新たな取り組みへの対応がありました。後者としてまず取り組んだのは、事業実行ベースでの技術の開発と民有林への普及であり、伐採と造林の一貫作業システム（北信署）や、国産材型桢合板を用いた治山事業の実証的实施（中信署）がその代表例だと思います。これらの取り組みの実施にあたっては、局署の皆様はもとより、信州大学や請負業者等の方々に多大なるご協力を頂きましたこと、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

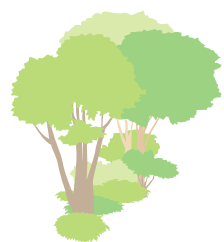
次いで対応したのが、平成二十四年度補正予算の執行と、これに係る入札不調等でした。近年稀に見る規模の予算であったことと、時期的に一般会計への移行と重なったことから、事業実行に携わる局署の皆さんには大変なご苦労をおかけしたと思います。また、業界団体の方々にも大変ご協力頂きました。本当に

有り難うございました。

こうした中、平成二十六年度の当面の課題は、何と言っても事業の早期発注と、民国連携では事業実行面での情報共有だと思えます。特に後者については、長野県、岐阜県ともに大型の木材加工施設やバイオマス利用の稼働が間近に控えていることから、需要と供給の間、更には供給者間での情報共有が益々重要となります。後者の情報共有に向けた取り組みは既に始まっていますが、今後は、地方事務所・署単位での情報共有が期待されると思います。

ちなみに、任期中に行けなかった（心残りの）箇所を幾つか。一つ目は雲ノ平で、あれだけの秘境で NPO、大学と連携して自然再生事業を実施しているとは驚きの一言です。二つ目は三峰川最源流部にある造林地で、余りに奥地過ぎて行かかけた途中で断念した経緯があります。そして最後は尾上郷と六所川で、広葉樹の宝庫であった荘川地区には、それだけで特別な想いがあります。

最後になりましたが、一年九ヶ月間本当にお世話になりました。有り難うございました。



平成二十五年度 森林・林業社会貢献活動に 対する局長感謝状贈呈式

【総務課】平成二十六年三月二十六日、中部森林管理局局長室において、「平成二十五年森林・林業社会貢献活動に対する局長感謝状」の贈呈式が行われました。

この感謝状は、地域の森林整備や防災活動にボランティアとして貢献した企業、団体等に対して送られるもので、防災協力活動部門、森林づくり部門及び地域連携活動部門の三部門から成り、局長感謝状と森林管理署長等感謝状があります。



感謝状贈呈式の様子

二十五年度は、企業六十四、団体二十八の計九十二の応募があり、厳正な審査を行った結果、四十の企業・団体に感謝状を贈呈することとなりました。このうち、特に顕著な功績があった十六の企業・団体に対して、局長感謝状が送られました。

中部森林管理局としては、これからも企業等のボランティア活動を応援し、国民の森林づくりを推進するとともに、地域振興に寄与できればと考えています。



局長感謝状を贈呈された皆さん



設置された掲示板

川下側への 情報発信の取り組み

「名古屋事務所」名古屋事務所では、二百万人都市名古屋の立地条件を活かし、上流地域と下流地域の連携強化を目指し、森林・林業等に関する情報発信に取り組んでいます。名古屋市を含めて愛知県の各地域は、その上流にある長野県や岐阜県の森林を水源としており、上流地域の大切さやすばらしさを知って頂くことは重要と考えています。

この度、名古屋林業土木協会の皆様、このような取り組みにご賛同頂き、協会建物外壁に情報発信のための木製の掲示板を設置されました。掲示板は、木

材の良さもアピールできるよう東濃ヒノキを使用し、一部は防腐・変色防止の液体ガラス処理も行われています。

掲示板は、近隣の保育園児や通勤・通行者等、多くの人の目にとまる位置にあり、日頃は見ることができない川上側の森林の様子を知ることができるなど森林・林業、木材利用等の情報発信の場としてふさわしいものとなっています。



子供たちからは歓声が

今回は局が実施した「カラマツ新緑写真コンテスト」入選作品と映画「wood job」ポスター及び地域共催のイベント「みどりのフェスティバル」情報を掲示しました。通行者からは、「木の看板がとてもきれい」、「こんな景色を自分の目で見てみたい」といった感想や、散歩する園児達の「わあ〜きれい〜」など歓声もあり、みなさん立ち止まって見入っています。

名古屋林業土木協会は、国土保全はも



間島東濃署長（右）から青山中津川市長へ贈呈

各地からのたより

明治神宮復興写真パネル

中津川市に贈呈

「東濃署」三月十七日、中津川市役所において、明治神宮復興造営工事（昭和三十三年本殿遷座祭）に関する写真パネル九枚が、東濃森林管理署長から中津川市長に贈呈されました。

とより地域振興や社会貢献へ寄与するとの観点から、森林・林業の再生、治山・林道事業の推進、木材利用推進にも取り組むとしており、名古屋事務所としても引き続き適切な連携を通じた情報発信を協働していく考えです。